

【給食協会賞】思い出の給食

安城北部小学校 長江 大斗

小学校六年間毎日出してくれた給食には、大好きなメニュー、たくさん思い出があります。

思い出の中から印象に残っているのは、おかわりです。おかわりのおときはいつもどれくらいもらえるのか、何の具が入っているのかなど、とてもわくわくします。また、デザートなどのおかわりをじやんけんで決めるときは、毎回とても白熱して盛り上がります。そんなおかわりは、とても思い出に残っています。

ぼくが給食で一番大好きなメニューは、ビビンバです。献立表でビビンバを見つけると、いつもその日が来るのを指折り数えています。給食のビビンバはお肉と卵だけのシンプルなメニューだけど、お肉にかかっているたれがごはんに合つてとつてもおいしいです。もちろん他のメニューを減らしてしまうとおかわりできなくなってしまうので、ビビンバが出る日にあまり好きではないメニューが出ても頑張つて食べます。それくらい、ビビンバは大好きなメニューになっています。

また、頑張つた思い出として、給食当番があります。盛りつけを工夫することや、スムーズに準備することなどを、しっかり意識してやっています。だれど、先生の分が多すぎたり、お皿の数を間違えるなどのハプニングが起きることもありました。給食当番は大変だけど、とてもやりがいのある仕事だと思えます。配ぜんを待っている子のわくわくした顔

を見るのも楽しいです。

ぼくが三年生くらいのころに新型コロナウイルスにより黙食がふつうになって、一人でさびしく給食を食べていました。それは五年生のころまで続いて、もう「給食とは静かに一人で食べるもの」というイメージがついてしまいました。しかし、六年生になった今では友達とお話ししながら食べられるようになり、以前のにぎやかな感じがもどってきました。最近の話題について話したり、くだらないだじやれを言ってみんなで笑ったりと、また楽しい時間が過ごせるようになりました。

ぼくは給食が大好きです。全てのメニューが好きなので、ぼくの体を成長させてくれます。そして、元気のもとになっています。そんな給食をこれからも残さずに完食できるように努力します。

また、作ってくれる人への感謝を、これからも忘れずにしていきます。